

2022年度

## 学校評価報告書

○自己評価

○学校関係者評価 報告書

2023年3月

学校法人 RWF グループ  
四国中央医療福祉総合学院

## 1 学校評価（自己評価・学校関係者評価）目的

実践的な職業教育等を目的とした自らの教育活動その他の学校運営について、社会のニーズを踏まえた目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価・公表することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ることを目的とする。

生徒・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校等（専修学校と接続する学校）、保護者・地域住民、所轄庁など学校関係者等により構成された学校関係者評価委員会等が、自己評価の結果に基づいて行う学校関係者評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、学校関係者等から理解と参画を得て、地域におけるステークホルダーと専修学校との連携協力による特色ある専修学校づくりを進めることを目指し実施していくことで、評価プロセスの客観性・透明性を高め、学校運営の改善に役立てたいと考える。

### 1) 組織体制

学校評価の実務担当部署として、学校評価委員会を設置している。また、学校評価に関する実施要綱を定めている。

### 2) 自己点検・評価の実施期間

2022年4月から2023年3月までの期間

### 3) 評価基準

5段階評価(1が最低評価、5が最高評価)【1・2・3・4・5】

### 4) 評価結果の検証・分析

#### ①教育理念・目的・人材育成像

	指標	評価
自己評価	理念・目的・育成人材像は定められているか	5
	学校における職業教育の特色はなにか	5
	社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	5
	【評価理由、課題、今後の改善点】 開学よりチーム医療の現場で活躍できる高い実践力を持つ医療人を目指し人材育成をしている。本学院のHPや学生便覧には各種ポリシーを掲載している。また、各学科ガイダンスの時間を設け周知している。新入生保護者説明会はコロナ禍で対面での実施を見送ったため、各種ポリシー等については書面を郵送し周知している。講義においては、4学科(理学・作業・言語聴覚・看護学科)合同授業を実施し、よりチーム医療の大切さを学んでいる。特色としては「よく学び、よく遊ぶ」というモットーを掲げており、昨年度は、学院祭や各学科の取り組み等は規模を縮小して感染対策を行いながら実施できた。 本学院の教育理念・目的・人材育成像は今後も変わることはないが、社会の求めるニーズは変化していくため、常に見直しや修正をしていく必要がある。	

	評価	ご意見
学校関係者 評価	5	教育方針が明確に定められており、将来、チーム医療の現場で活躍できる高い実践力を持つ医療人の育成に向けて取り組んでいることが分かる。学院のモットーである「よく学び、よく遊ぶ」においてもコロナ禍であるが感染対策を実施ながら可能な限り実施できていると思う。

②学校運営

	指標	評価
自己評価	目的等に沿った運営方針が策定されているか	5
	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	5
	運営組織や意思決定機能は規則等において明確にされているか	5
	人事、給与に関する制度は整備されているか	5
	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
	<b>【評価理由、課題、今後の改善点】</b> 学科長会議、委員会組織を整備し、教育目標に基づいてそれぞれの目標を定めて、計画立案のもと、運営会議で最終決定を行い実施している。また、運営会議や学科長会議の内容は各学科教員に周知している。昨年度に引き続き Microsoft Teams(マイクロソフトチームズ)を使用し、教職員への周知事項や決定事項など情報システムの効率化に取り組んだ。	

	評価	ご意見
学校関係者 評価	4	規則に則って運営されており基本的に問題はないと思われる。情報システム等の効率化に関しては昨年度より改善はできているがまだ不十分なところもあり課題として取り組む必要があると思われる。

③教育活動

	指標	評価
自己評価	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	5
	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	5
	関連分野の企業・関係施設等・業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直しが行われているか	4
	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置付けられているか	5
	授業評価の実施、評価体制はあるか	5
	職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5
	資格試験の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置付けはあるか	5
	人材教育目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
	<b>【評価理由、課題、今後の改善点】</b> 授業は概ねシラバス通りに実施できた。初年次教育ではソーシャルスキル・コミュニケーションスキルの向上に向けた取り組みを行っている。また、本学院のモットーである「よく学び、よく遊ぶ」を時間割の中に組み入れ実践している。授業評価においては、各学科の学科長により、評価結果を基に、振り返りを行い、教授方法の改善に努めている。成績評価や単位認定においては明確な基準を設け、運営会議で協議し判定をしている。国家資格の取得のために、各学科、カリキュラム外で学習支援を行っている。また、3年次の国家試験対策ではグループワークや個別指導を行っている。看護学科においては、昨年度から引き続き、タブレットを使用し、ICT 教育を実施している。	

	評価	ご意見
学校関係者 評価	4	教育活動に関して、特に問題と感ずる点はないと思われる。授業において学生に興味を持たせることや理解度をより上げていくためには視覚化(画像・動画)は必要と思われる、今後もぜひ取り入れていただきたい。また、座学においては、一方的な授業にならないように、アクティブラーニングをもっと導入してもいいのではないかとと思われる。

④学修成果

	指標	評価
自己評価	就職率の向上が図られているか	5
	資格取得率の向上が図られているか	5
	退学率の低減が図られているか	4
	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
	【評価理由、課題、今後の改善点】 2022年度の就職率も昨年に引き続き100%を達成できた。また、2022年度の国家試験新卒合格率は概ねの学科において全国平均を上回ることができた。問題を抱える学生や成績低迷者の早期発見・対応を行い、近年、退学率の低減は行えているが、退学者はゼロにはなっていないのが現状である。 卒業生の社会的な活躍において、一定の把握はできているものの、十分ではない。	

	評価	ご意見
学校関係者 評価	4	国家試験においては、概ねの学科が全国平均より高い合格率を出している。学修成果として良い結果である。昨年の意見と同様になるが卒業生の中でも現場で活躍していたり、学会発表を積極的に行っている方もいると思うので、学校として把握し、交流を深めていけたら良いと思う。

⑤学生支援

	指標	評価
自己評価	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	5
	学生相談に関する体制は整備されているか	5
	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	5
	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	5
	学生の生活環境への支援は行われているか	4
	保護者と適切に連携しているか	5
	卒業生への支援体制はあるか	5
	【評価理由、課題、今後の改善点】 進路・就職支援に対し、図書室等に求人情報コーナーを設置し、県内外に分けてファイルを作成し、いつでも閲覧できるようにしている。また、各学科で積極的に履歴書の作成や面接マネー等の指導をしている。定期的に学生面談を設け、教職員での情報共有を行っている。また、学生相談室を設け、担任・副担任に相談しづらい内容にも対応している。昨年度同様2022年度の新入学生において市内在住中の学生は市から入学金15万円の助成金をいただいた。その他、奨学金や社会人には一般教育訓練給付金や作業療法学科・看護学科においては、専門実践教育訓練給付金の受給体制も整えている。また、学院独自の学生アシスト制度として、在校生特待生制度、大学卒業者支援制度、家族優遇制度を設けて補助している。健康管理においては定期健康診断を全学生に実施している。また、コロナ禍ということもあり毎朝、グーグルホームを使用し、検温などの体調チェックを行っている。生活環境への支援としては、学院専用ワンルームマンションを設けている。学生の出席状況や生活態度等に問題がある場合は、こまめに保護者に連絡をし、情報共有を行うなどの連携を図っている。保護者との面談も随時実施している。	

	評価	ご意見
学校関係者 評価	5	学生支援に関して、一定以上の取り組みがあり効果も出ていると思われる。しかし、学生は様々な問題を抱えているため、教員としても学生の多様性に対応していく努力が必要ではないかと感じる。また、様々なニーズに対応するために、学生の福利厚生への検討も必要であると感じる。

⑥教育環境

	指標	評価
自己評価	施設・整備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備しているか	5
	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	5
	防災に対する体制は整備しているか	4
	<b>【評価理由、課題、今後の改善点】</b> 昨年度はインターネット環境(全教室 Wi-Fi 等)の整備はできた。このことにより、必要に応じて遠隔授業(オンライン等)もスムーズに実施できた。また、本部棟視聴覚教室の黒板の大型ホワイトボードへの変更や本部棟講堂の照明をLED 化し、過ごしやすい環境に整備を行った。昨年度はコロナ禍により、現場での実習が困難な時期もあり、一部学内実習で対応した。現場実習の際には、実習施設・指導者との密な連絡を図ることができた。エレベーターや防災関係設備・管理を行っており、毎年10月に消防署の立ち合いのもと消防訓練を行っている。また、シェイクアウトえひめの防災訓練も参加している。学校内における不慮の事故や災害に備えて、学生保険に加入している。AEDを設置し万一の事態に備えている。	

	評価	ご意見
学校関係者 評価	4	一定以上の教育環境は整備されており、問題はないと思われる。インターネット環境においても必要最低限の整備が来ている。昨年同様、老朽化した備品などについて新規購入の計画が必要である。

⑦学生の受入れ募集

	指標	評価
自己評価	学生募集活動は適正に行われているか	5
	学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	5
	学生納付金は妥当なものになっているか	5
	<b>【評価理由、課題、今後の改善点】</b> 教職員による学校訪問やガイダンス、オープンキャンパス、SNSの発信等、学校の広報活動を積極的に行っている。就職状況はパンフレットに記載している。国の修学支援制度において、ホームページやパンフレット等で告知している。学納金は妥当であると思われる。近年、入学者数の減少があるため、より広報活動に尽力する必要がある。	

	評価	ご意見
学校関係者 評価	5	学生募集活動や学生学納金においては、適正に行われており問題はないと思われる。四国中央市、唯一の医療系の専門学校ということもあり、地域医療を支える人材の確保として、入学生増加に向けての広報活動を期待したい。

⑧財務

	指標	評価
自己評価	中長期的に学校の財務基盤は安定しているか	5
	予算・収支計画は有効かつ妥当なものになっているか	5
	会計監査が適正に行われているか	5
	財務情報公開の体制準備はできているか	5
	<b>【評価理由、課題、今後の改善点】</b> 少子化等により、以前より入学生が減少している学科もあり、それに伴い収益も減少している。改善点は昨年度に引き続き、戦略を立て積極的に広報活動を図っていく。	

	評価	ご意見
学校関係者 評価	5	現在及び今後の日本はさらに少子化が進むことが明白であり、今後の財務の基盤を安定させるためにはいかに入学生を確保していくかということが重要である。

#### ⑨法令等の遵守

	指標	評価
自己評価	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	5
	個人情報に関しその保護のための対策が執られているか	5
	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
	自己評価結果を公表しているか	5
	【評価理由、課題、今後の改善点】 学則を変更する際には会議を通して、職員全体で確認している。個人情報の取り扱いについて教員相互で注意をしており、学生についても機会あるごとに注意を行っている。2020年度から自己評価結果は学院ホームページに公開している。	

	評価	ご意見
学校関係者 評価	4	法令等を遵守した運営がなされている。今後も自己評価に対し学校関係者評価を実施し、学校運営にもしっかりと反映していただきたい。

#### ⑩社会貢献・地域貢献

	指標	評価
自己評価	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
	学生のボランティア活動を奨励・支援しているか	3
	【評価理由、課題、今後の改善点】 昨年度に引き続きコロナ禍で外部の方の講演会等の行事はすべて中止とした。また、例年であれば、四国中央市の市民ボランティアセンターと連携を取り、ボランティア活動の推奨・支援をしている。しかし、コロナ禍でボランティア自体の依頼が激減しているためボランティア活動には参加できていない。教員が市のボランティア市民活動推進協議会の委員となっている。	

	評価	ご意見
学校関係者 評価	3	昨年に引き続きコロナ禍で行事やボランティア等の参加は困難だったと思うが、2023年度は、感染症法が2類から5類に引き下がったこともあり、ボランティアの依頼が増加することが予測されるため、可能な限り学院としても対応していただきたい。また、様々な研修会等、学院を使用して開催できれば、社会貢献や地域貢献がもっとできると思われるため、期待したい。

## 2 評価結果の公表

本学院、ホームページにて公表

## 3 まとめ

教育方針が明確に定められており、将来、チーム医療の現場で活躍できる高い実践力を持つ医療人の育成に向けて取り組んでおり、講義においても4学科合同授業を実施し、よりチーム医療の大切さを学んでいることも分かる。また、開学より「よく学び、よく遊ぶ」というモットーを掲げており、コロナ禍において、2022年度も学校行事においてはすべてを中止にするのではなく規模は縮小したものの、学院祭等、感染対策を徹底しながら実行に移せたことは評価でき、引き続き取り組んでいただきたい。

学校運営においては、規則に則って運営されており基本的に問題はないと思われる。また、情報システム等の

効率化において、Microsoft Teams（マイクロソフトチームズ）を使用して、昨年度より改善はできているが、教職員の得意・不得意がありまだ不十分なところもあるため、スキルアップをしながら取り組んでいただきたい。

また、コロナ禍における授業や学外実習、このためのICT機器の整備、さらには、一部学生はコロナの影響で学外実習から学内実習に切り替わり教員、学生共々、模索しながら実施してきたことは、とても大変だったと推測される。そのような中、2022年度の国家試験新卒合格率において、昨年に引き続き、概ねの学科が全国平均を上回る結果を出していることは素晴らしい。多様な学生を教育するにあたり、国家試験対策は一筋縄にはいかないと思うが、引き続き国家試験合格率向上への取り組みを継続していただきたい。

学生支援では、2021年度から導入されている市内在住の方を対象とした四国中央市からの入学金15万円の助成金については、学生にとって非常に良い支援制度であり、地元の学生が増え、地元就職することで、将来、地域の医療・福祉への社会貢献が期待できる。2024年度の入学生（2023年度受験者）においても適用されるとのことで継続して行えていることは非常に良いことだと思う。

今後も継続的に取り組むべき課題は、昨年度に引き続き、学生の学習能力に応じた授業の継続、国家試験の合格率の向上等である。教職員はさらに切磋琢磨し、使命感をもって邁進することが大切であり、今後もさらなる教育水準の向上に学校をあげて鋭意努力していただきたい。また、四国中央市で唯一の医療系専門学校ということで、地域医療を支える人材確保として、入学生増加に向けての広報活動をしていただきたい。最後に、医療・福祉の担い手となる養成機関として、さらなる発展を遂げられることを期待したい。